

「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



命こそ宝! (めち・どっ・たから) ～6/23 沖縄「慰霊の日」～

【海にすてられた甲子園の土】

夏の高校野球、敗退したチームが甲子園球場の土を、青春の思い出として持ち帰るのは風物詩の一つ。しかし、ある高校の球児が地元に戻った瞬間に「甲子園の土」は没収、海にすてられてしまった。1958年8月31日、戦後初の沖縄代表として参加した首里高校の話だ。

当時の沖縄は日本返還前で、アメリカの統治下にあった。そのため沖縄には日本国憲法が適用されず、日本本土から船や飛行機で着くとパスポートの審査や検疫(けんえき)の検査を受けなければならなかった。検疫では「外国の土は持ち込んではいけない」という規定があり、球児たちが大事に持ち帰った甲子園の土は「外国の土」ということで没収され、那覇港の海にすてられてしまった。なんと冷たい仕打ちだろうか。しかし、このことが当時の新聞で報じられると大きな反響を呼んだ。「悲しいやら悔しいやら、じっとしておれません」と憤(いきどお)った日本航空の客室乗務員の女性が、甲子園の小石を40個近く集めて沖縄に届けた。検疫法にひっかかるのは、土のみで石は含まれなかったからだ。首里高校の甲子園出場記念碑には今も、この甲子園の石がはめ込まれている。首里高校の事件がきっかけの一つとなり、沖縄返還運動は一層盛り上がり、1972年の沖縄返還につながった。それから数十年、2010年に興南高校が沖縄勢初の甲子園大会優勝を果たした。涙を流して自分のことのように喜ぶ沖縄県民の皆さんの姿がとても印象的だった。

1945年、沖縄県では住民をまきこんだ日本とアメリカの激しい戦争「沖縄戦」がありました。沖縄県のまとめでは日本の犠牲者は18万8136人で、県民の4人に1人が亡くなったといわれています。唯一の地上戦で大きな被害を受けた沖縄では、日本軍の組織的な戦闘が終わったとされる**6月23日**を、**平和を誓う「慰霊の日」**として定めているのです。1972年、ちょうど50年前にやっと沖縄は日本に返還されました。しかし、現在でも多くのアメリカ軍基地が沖縄に集中しているという事実があるのです。「命こそ宝!」、命が何より大切。沖縄では「めち・どっ・たから」と読み、ずっと受け継がれている大事な言葉です。遠い時代の話、遠い場所の話ではなく、今の自分たちに結びつけて、今日は改めて「命こそ宝!」について深く考える一日にしてほしいのです。**沖縄「慰霊の日」**に思いを寄せて!

英検の一中ここにあり!

沖縄戦から77年。戦後生まれの人口が90%を占める現在、地中に残る不発弾の処理にはさらに100年近くかかるといわれている。

第1回英検の結果は、準2級3人、3級10人、4級13人、5級9人が見事合格。おめでとう。忙しい中でも挑戦心を持ち、果敢にチャレンジした受験者に拍手。本当に素晴らしい。英検は誰でも何度でも挑戦できる。第2回に向けて燃える心を準備していこう。「できるかどうか」ではなく、「そうなりたいかどうか」で挑戦。**英検の一中ここにあり!**

準2級	平野稜真・軸丸乃哉・野中あみ
3級	高橋暁人・田口はるか・平山詩子・松下琴春・富田和花・三代裕市・和田翔空・秦野紡衣・工藤翼・廣瀬陽愛
4級	西村唯奈・青木龍真・中村聖梨・井芹友寛・大村優菜・上野優希菜・加木貴琉・黒木侖・下松沙羅・田中亜依・中村奏星・野田賢太郎・宮本小暖
5級	佐藤禮士・田島怜・濱野一朗・山崎陽太・大下佳子・河村瑠南・大村瑠菜・下川瑠己・高崎薫

3級以上は二次試験有。頑張れ。

将来、もっと多くの人とつながっていくことができるんだというワクワクした気持ちで英語を学んでいこう。

